

「坂出市高齢者福祉計画および第7期介護保険事業計画」の進捗にかかる質問・意見について（回答）

1. 自立支援・重度化防止の推進				
No.	資料 ページ	項目	意見・質問のポイント	回答
1	P1	1 (1) ①	新規の取組みとして「住民主体の通いの場への専門職支援（医師、歯科医師、薬剤師、リハビリ専門職など）」とありますが、市民はどのような方法で支援を受けられますか？ 【質問】	専門職である医師や薬剤師、リハビリ専門職などが、直接「通いの場（市民が主体的に実施している場所。例えば、地域の「仲間づくり活動」の場）」に出向き、専門的な助言等を行うことで、介護予防活動の支援ができると考えます。 市内の専門職による協力支援と「通いの場」へのコーディネート方法について検討したのち、地域住民と各種団体等に機会を捉えて周知し、より一層の介護予防の推進を図ってまいります。
2	P1	2 (1) ①	「ころばんで体操」について、DVDを作成し、各種団体へ配布されていますが新型コロナウイルス感染症防止のため外出を控える高齢者も多いため、ラジオ体操のようにケーブルテレビを見ながら自宅で体操ができれば良いと思います。 【意見】	DVDは、第7期介護保険事業計画作成時のニーズ調査において、「介護・介助が必要になった主な原因」として転倒の経験があることや外出頻度等の状況から運動器機能の低下がみられる高齢者が多かったことから、各地域での「通いの場」等で活用していただけるよう、市内のリハ連携会の協力により「Let's まるフレンズ」の曲に合わせたオリジナル体操等を含め作成したものです。 新型コロナウイルス感染症拡大防止により、各地区での「通いの場」や「はつらつ教室」が開催できなかつたため、チラシを作成し、本年6月には、ケーブルテレビで放送しました。チラシは全戸配布しています。 今後、「コロナ新生活」がいつまで続くか分からない状況の中、家族で楽しめる時間帯などの放映も有効な手段と考えます。また、坂出市の介護予防体操としてあらゆる機会を利用してPRし、認知度を上げ、「みんなで楽しく体を動かす」きっかけにしていきたいと思っております。
3	P2	3 (2) ①	高齢者のひとり暮らしが増加し、地域での見守りが重要だと考えますが、立ち入ることには限界があります。「出前包括」に期待したいと思います。 【意見】	ひとり暮らしのかたが増加し、「向こう三軒両隣」的な日頃からの声掛けや周囲の見守り、助けを求められる環境が重要と考えられます。また、地域での対応が困難な時は、相談窓口の一つとして地域包括支援センターに相談していただき、「出前包括」として各地区に出向き、適切な支援につなげたいと思っております。
4	P2	3 (2) ⑤	窓口での総合相談事業はもちろん、電話での相談も可能であること（電話番号や趣旨）を公表してはどうでしょうか。 【意見】	「さかいで暮らしの便利帳」やかいご課のパンフレット等に記載し周知していますが、気軽に相談できる体制づくりの強化をしてまいります。
2. 高齢者の生活を支える体制の充実				
No.	資料 ページ	項目	意見・質問のポイント	回答
5	P7	5 (2) ②	「きんとキット」は、現状ではどのように活用されていますか。内容に改善はありましたか。 【質問】	「きんとキット」は、かかりつけ医や疾病、服薬内容等の重要な医療情報をコンパクトに収納した情報キットであり、迅速かつ的確に情報を伝えることができるものです。救急隊員が駆け付けた際に救急活動に必要と判断した場合、冷蔵庫から「きんとキット」を取り出し、活用しております。 「きんとキット」の内容についての改善は行われていませんが、救急時だけでなく災害時にも活用でき、ひとり暮らし高齢者のかたの安全・安心を確保するためにも「きんとキット」の活用方法の周知を行ってまいります。
6	P8	6 (2) ④	「ひとり暮らし高齢者」や「高齢者世帯」が今後増加していく中、住み慣れた地域で住みつけていくためには、いろいろな問題があると思います。健康で自分のことは自分でできることが望ましいのですが、加齢とともに行動範囲が狭くなり活動内容も低下していきます。そういう状況から、様々な困りごとについて相談できる環境づくりをお願いします。生活状況や困りごとなどから必要な課題や対応が出てくると思います。 【意見】	・老人クラブの友愛活動により、同じ高齢者の立場から見守りを行い、老人クラブ内で情報交換をしながら、相談しやすい環境づくりにつなげてまいります。 また、自宅への新聞等配達や訪問を伴う事業者との間で、配達物がポストに溜まったり、訪問時に異常を感じたりした場合には、市や警察・消防に通報するなどの見守りを行っており、市、民生委員などそれぞれの立場から見守り、連携・協力してまいります。 その他、複数の見守り活動を通じて、相談の機会を増やしてまいります。 ・住み慣れた地域で安心して在宅生活を継続していくためには、「自助」を基礎として「互助・共助・公助」の連携によって様々な生活課題を解決していく取り組みが必要となります。 地域の実情に応じた多様な活動主体による重層的な生活支援サービスの提供体制の整備を図り、元気な高齢者が生活支援の担い手として活躍できるような活動の場や機会の確保に努めます。
7	P9	8 (3) ①	高齢者や認知症高齢者が増加することから、成年後見制度などの権利擁護支援が必要なかたが増加すると予想されます。分かりやすい説明と相談場所や相談方法の公表の継続をお願いします。 【意見】	「出前講座」等、地域住民等に機会を捉えて成年後見制度について周知啓発を推進してまいります。 また、坂出市社会福祉協議会に設置されている坂出市成年後見センターとも連携し、高齢者の権利擁護に努めます。
8	P10	10 (4) ①	高齢者による自動車運転事故が増加している中、高齢者が自ら交通事故などに気を付けることは重要であり、運転免許証を返納しても不自由なく暮らせる社会環境づくりが必要だと考えます。車に乗らなくても安心して暮らしていける社会は、環境にも優しいと思います。 【意見】	運転免許証を自主返納した場合、申請により「運転経歴証明書」や「高齢者運転免許卒業カード」の交付を受けることができ、公共交通機関や小売店などで割引等のサービスが受けられる返納者優遇制度等を利用し、快適な暮らしができるよう周知してまいります。 また、運転免許証自主返納者に、タクシー利用券、坂出市地域割引回数券を交付しており、免許返納後も安心して生活できるように、公共交通の利用促進を行ってまいります。

No.	資料 ページ	項目		意見・質問のポイント	回答
9	P10	10	(4)	<p>① ② ③</p> <p>自主返納申請者数の増加、安全教室の開催等、成果が大いにみられると思いますが、交通事故となると本人や家族、他の人にまで影響を及ぼすことが考えられます。安全教室の教習コースの受講や免許証返納について、本当に必要な人ができていないのではないかと思います。免許証自主返納については、返納後の生活をどうするかも含めて家族の理解や協力、相談が不可欠で非常に難しいと思います。</p> <p>【意見】</p>	<p>・坂出市と免許センターが協定を結び、免許更新時に認知機能低下で免許証を返納した場合、本人の同意のもと地域包括支援センターに連絡が入り、相談等の対応を行っております。</p> <p>・70歳以上で免許更新を行う場合は、自動車教習所等での実車講習を含む高齢者講習が道路交通法上義務付けられており、本市の教習所での交通安全教室は、それを補完する役割を担っていると考えております。引き続き、高齢者の方がたの積極的な参加を呼び掛けてまいります。</p>

No.	資料ページ	項目		意見・質問のポイント	回答
10	P10	10	(4)	① ③ 運転免許証自主返納について、高齢者は自分はまだまだ大丈夫と 思っている人が多いです。しかし、信号無視、逆走等自動車 運転だけではなく自転車、歩行者にも多々見られることか ら、本人に若い頃とは違うということを自覚してもらうこと が大事だと思います。 【意見】	高齢者を対象とした交通安全教室では、加齢に伴う運動能力や認知機能の低 下を認識していただけるよう内容を工夫して実施しております。引き続き、 多くの高齢者の交通安全の意識の醸成に努めてまいります。
11	P11	11	(4)	最近、豪雨などで自然災害が多くありますが、幸いにも香川 県は災害が少なく、災害に対する危機感も少ないと思いま す。 それぞれの生活環境等が違うため、災害によって避難方法も 異なりますが、一人ひとりが災害に対する対応を考える必要 があります。特に「ひとり暮らし」「高齢者世帯」に対して 個別なアドバイスができればと思います。 【意見】	災害発生時において、自ら避難をすることが困難な方を対象に作成する 「避難行動要支援者避難支援計画」について、内容を理解していただき、地 域で助け合える繋がりを作っていただけるよう周知してまいります。 また、災害情報のプッシュ通知、安否確認、避難所までのルート案内等を実 施することができる防災アプリ(香川防災ナビ)についても、周知・啓発を 行ってまいります。

3. 認知症高齢者支援策の充実

No.	資料ページ	項目		意見・質問のポイント	回答
12	P13	3	(1)	③ はいかい高齢者の支援について、国内では「はいかい」など が原因で行方不明になるかたも多くいると聞きます。 なかなか見つからない状況は、その家族の不安感を高め、ま た、本人の体のことを考えると早く保護してほしいと思いま す。 「まいまいこ(はいかい)高齢者おかえり支援サポーター」 の協力継続と共に、他の支援の検討をお願いします。 (例：一緒に外を歩いてくれる「はいかい支援サポーター」 等、寄り添った支援) 【意見】	認知症サポーターを増やし、認知症についての周知・啓発をあらゆる機会を 通して実施してまいります。
13	P14	4	(1)	① 年齢を問わず増えている認知症症状の見分け方が難しい現状 に、早期診断、早期対応強化をどのように進めていくので しょうか。 【質問】	「もの忘れ・けんしん」と「認知症サポーター養成講座」等とおし、「認 知症」の知識を広め、周囲の人の「気づき」や「理解」ができるよう、周知 啓発を行ってまいります。

4. 介護支援の推進

No.	資料ページ	項目		意見・質問のポイント	回答
14	P19	サービス見込み量等	(3)	短期入所療養介護(ショートステイ)の令和元年度の計画比 が157.1%と高くなっています。入所待ちのためか、入所待 ちの割合はどのようになっているのか。 【質問】	第7期計画時の事業者ヒアリング調査では、老人保健施設の入所待機者数は 45人(重複者等を除外した人数は27人)となっております。 短期入所療養介護は、老人保健施設入所定員内で実施するものであり、計画 策定時には短期入所療養介護が増加することを想定していなかったことが乖 離の原因と考えております。 計画期間中、新たに待機者数については調べてはいませんが、平成29年から の各施設の入所率を見ますと93%~96%となっており、満床でないため、入 所待機者は増加していないと考えております。
15	P20	サービス見込み量等	(5)	地域密着型介護予防サービスの令和元年度の計画比が 155.7%、介護予防小規模多機能型居宅介護は226.5%となっ ています。サービス事業所の数(令和2年には増えている) との関係等、見込について示してください。 【質問】	介護予防認知症対応型通所介護は、平成28年4月から事業所が2か所開設され たものの利用者数は、第6期中の利用者数とほぼ同数程度で見込んでおりま したが、予想以上に利用者が増えたこと、要支援区分や回数により給付費が 大きく増えたことにより、計画との乖離が大きくなったと考えております。 介護予防小規模多機能型居宅介護は、看護小規模多機能型居宅介護への転換 意向があったため、要支援者は他の小規模居宅介護に移行すると考え、第6 期中とほぼ横ばい程度と見込みましたが、予想以上に利用人数が増えたこと が乖離の原因と考えております。

全体

No.	資料ページ	項目	意見・質問のポイント	回答
16		全般	身のまわりを見渡すと自宅の畑へ行く5分くらいの間にも草 が生い茂る畑が増え、空き家には草が目立つようになり、い つか我が家も、こんな風になるかもとの思いが頭をよぎりま す。 また、近くの訪問看護サービスを受けて喜んでいただかたの様 子を見ると、これからもこのような手厚いサービスが可能なの かとも思います。 老人会で駅の清掃をすると(草取り)会員の半数超えの人た ちが寄って来てくれる中、この人たちが気軽に生活できる地 域づくりとは?と思います。 自分たちに出来ることは皆で知恵を出し合って楽しんで、人 生100年時代を過ごしたいと思います。 【意見】	高齢者ができる限り住み慣れた地域で認知症や介護が必要になっても自立し た生活を継続するために、介護サービスの基盤整備の充実や質の向上と確保 に取り組むとともに、介護人材の育成・確保の取り組みを行ってまいりま す。 また、住民の自主的な活動を通じて、地域の支え合い活動を促進するととも に、役割を持つことがや生きがいや介護予防につながることから、高齢者が 担い手として活躍できる環境を醸成したいと考えております。